資料　１６

子どもにやさしいまちづくり事業(CFCI)
2023年度取り組み内容及び自己評価結果について

「まちだ若者大作戦」

「まちだコドマチフェスティバル２０２４」

1 子どもにやさしいまちづくりとは

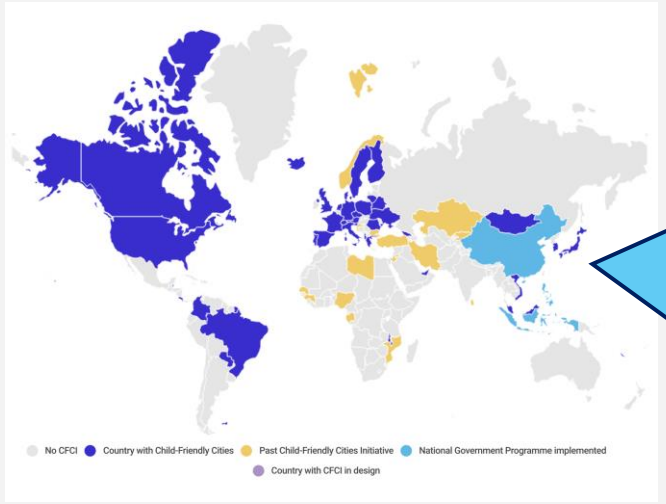
Child Friendly Cities Initiative＝子どもにやさしいまちづくり事業

子どもの権利条約に批准する国の自治体は、子どもの権利保障に関するプログラムを具体化し、自己評価を行いながら実行しています。欧米を中心に取り組まれてきた事業が、アジアでも広がりを見せています。

取組に参加した経緯

2017年度にCFCIに取り組む韓国の自治体と、子ども施策に力を入れている日本の自治体との交流会が開催されたときに、**町田市から「子どもの参画」や「子どもの居場所づくりの推進」について紹介**をしました。

2018年度からCFCIを日本でも展開するため、町田市を含む5自治体で、「日本型CFC（子どもにやさしいまち）モデル」の検証をスタートすることになりました。



日本におけるCFCI実践自治体

日韓子どもにやさしいまち自治体交流会の取組発表

検証作業委嘱状の授与

ユニセフヨーロッパ事務所アンドレ副局長の表敬訪問

2 町田市版CFCIチェックリストについて

CFCIの実践自治体は、世界共通の「CFCIチェックリストの原文」に沿って、**各自治体独自の評価基準を設定したチェックリストを作成**します。評価基準に該当する事業をピックアップし、自己評価から改善までを行うことで**「子どもにやさしいまち」の達成度**を高めます。

町田市版CFCIチェックリスト（一部抜粋）

原文（世界共通）　各自治体が評価基準（行動事例）を作成し、事業や取組を当てはめる

No.	日本型CFCIモデルチェックリスト（原文）	ルーブリック評価（行動事例）	該当すると思われる事業・取組み	担当課（案）	個別評価
構成要素１　子ども問題への参画の					
1	□行政活動全体にわたって、子どもの権利条約 12 条（子どもが意見を表する権利を持つこと）の原則が反映されるしくみを有しているか？	◎展開する事業全般にわたり、子どもが意見を表明し、反映させる仕組みが存在し、上位計画に位置付けられている。 ○展開する一部事業で、子どもが意見を表明し、反映させる仕組みが存在し、上位計画に位置付けられている。 ×子どもが意見を表明し、反映させる仕組みが存在しない。	①市民参加型事業評価	①経営改革室	◎
			⑤高校生と町田市議会議員の意見交換会	⑤議会事務局	○
2	□保護者はじめ市民一般に子どもの意見の尊重の啓発活動が推進されているか？	◎ポスター作品や広報紙の配布等、子どもの意見を尊重する啓発事業が、庁舎や図書館等、域内の施設全般で展開されるなど、あらゆる市民が目に触れる機会を持つことができる状態にある。 ○子どもの意見を尊重する啓発事業が一部の施設で展開されているが、啓発事業が広く市民の目に触れる機会にない。 ×子どもの意見を尊重する啓発事業が積極的に展開されていない。	①町田市子ども憲章 ②子どもの参画推進事業 ③町田創造プロジェクト	①②③児童青少年課	○
			④ごみと環境の出前講座	④環境政策課	○
3	□子どもの意見の尊重、子ども主体目線は、福祉・教育はじめ子どもに関わる分野における職員研修に組み込まれているか？	◎子どもの意見の尊重が全職員を対象とした職員研修に組み込まれている。 ○子どもの意見の尊重が福祉・教育・その他の分野における一部の職員を対象にした研修に組み込まれている。 ×子どもの意見の尊重が職員研修に組み込まれていない。	①新規採用職員研修	①職員課、児童青少年課	○
			②児童厚生員向け研修	②児童青少年課	○

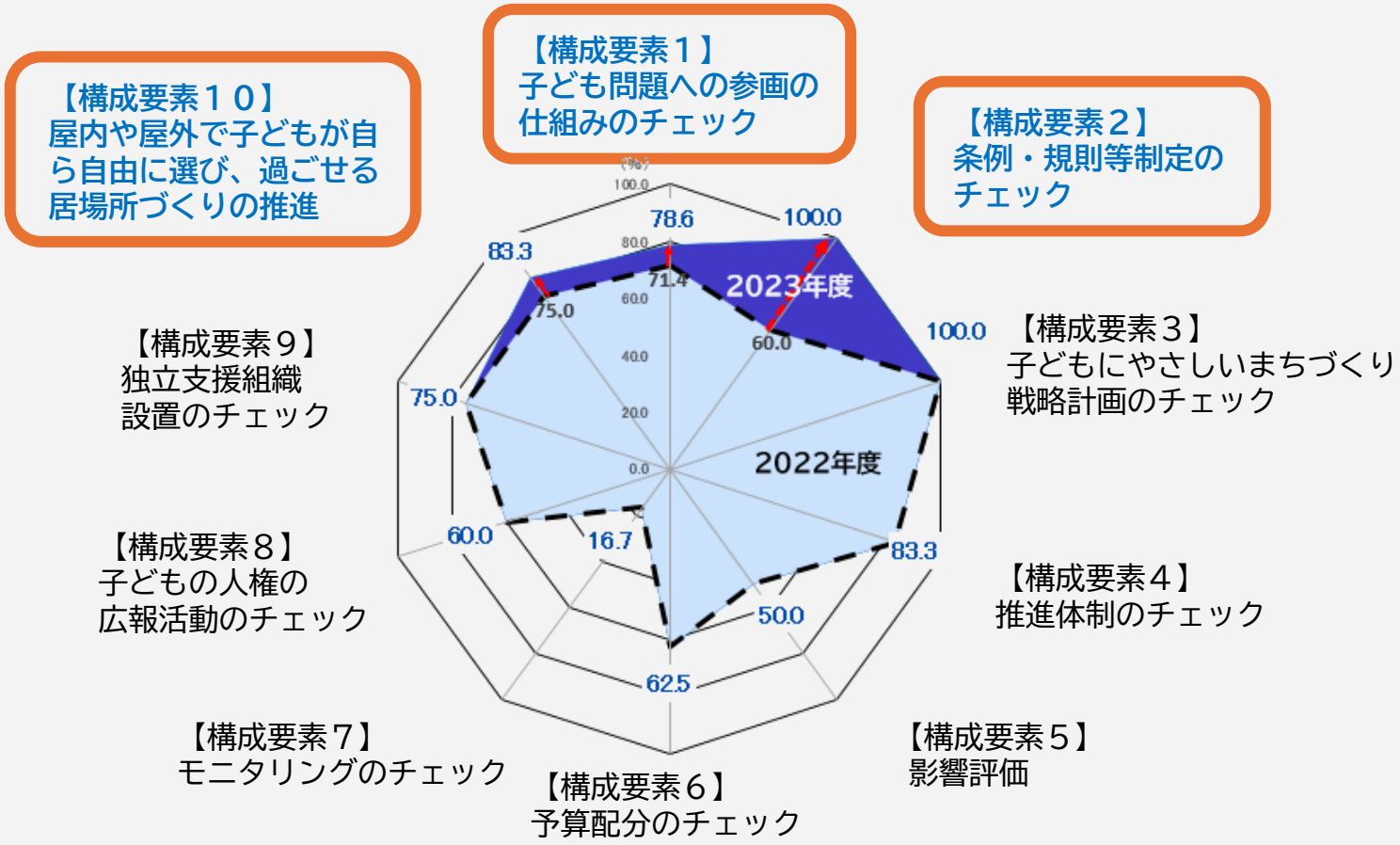
CFCIで求められる10の構成要素

① 子どもの参画
② 子どもにやさしい法的枠組み
③ 子どもの権利を保障する政策
④ 子どもの権利部門または調整機構
⑤ 子どもへの影響評価
⑥ 子どもに関する予算
⑦ 子ども報告書の定期発行
⑧ 子どもの権利の広報
⑨ 子どものための独立したアドボカシー活動
⑩ 自治体独自の項目
（町田市は「子どもの居場所づくり」を設定）

3 2023年度取り組み内容及び自己評価結果

２０２３年度は、日本型子どもにやさしいまち（CFC）モデル構成要素１０項目のうち、
構成要素1「子ども問題への参画の仕組みのチェック」、構成要素2「条例・規則等制定のチェック」、構成要素10「屋内や屋外で子どもが自ら自由に選び、過ごせる居場所づくりの推進」を改善しました。

2022年度末時点と2023年度末時点の自己評価結果の比較



2023年度の主な取り組み

5月	【構成要素１の改善】 子ども・若者が“やりたいこと”を自ら実現できるよう後押しする **→まちだ若者大作戦開始**
7月	【構成要素１０の改善】 ハード・運用面に子どもの声を取り入れた子どもの居場所として **→小山田子どもクラブ「ゆめいく」開所**
12月	【構成要素２の改善】 子どもの権利を保障することはもちろんのこと、子どもの幸せの実現のために大人ができることを考える **→「町田市子どもにやさしいまち条例」制定**

4 構成要素10「屋内や屋外で子どもが自ら自由に選び、過ごせる居場所づくりの推進」に係る改善事例

子どもたちが選べる居場所の整備

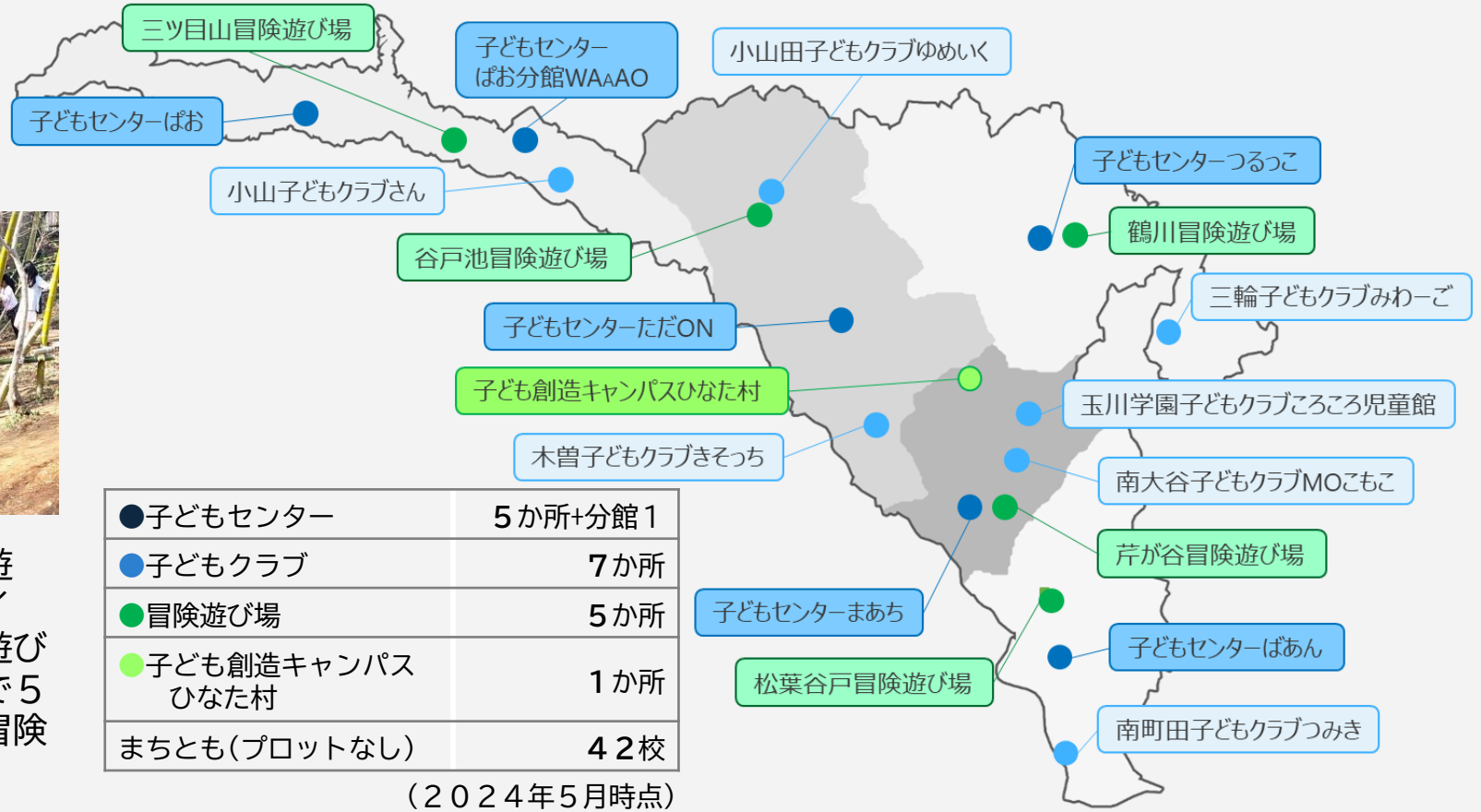
町田市では子どもセンターや子どもクラブといった児童館、公園の一部を利用して「自分の責任で自由に遊ぶ」ことができる冒険遊び場など、**子どもの居場所を整備しています。**２０２３年７月に小山田子どもクラブ「ゆめいく」が開館し、子どもセンター５館、子どもクラブは９館の整備方針のうち７館の整備が完了しました。

子どもクラブ

「子どもセンター」まで、子どもの足では通うのが難しい地域でも利用できる施設として、「子どもクラブ」を整備しています。

冒険遊び場

「自分の責任で自由に遊ぶ」が実現できるプレイパーク。松葉谷戸冒険遊び場がＯＰＥＮしたことで５地域すべてに常設型の冒険遊び場ができました。



●子どもセンター	５か所+分館１
●子どもクラブ	７か所
●冒険遊び場	５か所
●子ども創造キャンパス ひなた村	１か所
まちとも（プロットなし）	４２校

（２０２４年５月時点）

5 構成要素10「子どもの居場所づくりのポイント」

子ども主体の施設づくり

子どもセンターや子どもクラブの整備にあたっては、建設検討時からハード面に関する子どもの声を取り入れてきたほか、開所後も、子どもたちと一緒に考えながら運営しています。**特に、子どもセンターについては夜９時までの開館とし、中高生の居場所という認識が定着**したことが、中高生主体の館運営の体制構築につながりました。

ハード面で実現したこと

おしゃれなカフェの誘致

ボルタリングと
屋根裏ハンモックの設置

音楽スタジオと音響機材の完備

運営面で実現したこと

子ども委員と職員の座談会

マナーを守ってどこでも遊べる

おもちゃの購入

6 構成要素2「条例・規則等制定のチェック」の改善事例

町田市子どもにやさしいまち条例の制定

従来の子どもの権利を中心とした「町田市子ども憲章」（１９９６年制定）を発展させ、２０２３年１２月に「町田市子どもにやさしいまち条例」を制定しました。本条例には私たち**大人が、子どもたちに何ができるか、市民みんなができることを実行することを求める**という意味合いも含んでいます。

略して **まちだコドマチ条例ルール**

条例案の策定過程では、大人にも子どもにも多くの皆さんに意見を聴きながらまとめました

子ども参画ミーティングで条例案に子どもの意見を反映

「まちだコドマチ条例ルール」という呼びやすい条例の名称を決定

子どもにやさしいまち条例検討部会」における議論

対象ごとにわかりやすいリーフレットを作成

7 構成要素2「条例制定のポイント」

コドマチフェスティバルの実施

２０２４年５月５日、**「まちだコドマチ条例」施行に合わせて周知、啓発イベント**を実施しました。
このイベントでは、警察署や公園部局の協力の他、ボランティアの方々などの支援を受けることで、子どもたちによる企画が実現しました。これは、**市民、団体など大人ができることを実行するという条例の趣旨を体した事例**となりました。

公園部局の協力による街区公園の使用
ボランティアによるブース運営

地元プロフットサル
チームによる体験会

子どもセンターや子どもクラブなどで
集めた「コドマチメッセージ」

警察署の協力による道路の通行止めや
白バイ・パトカーの展示

8 構成要素1「子ども問題への参画の仕組みのチェック」の改善事例

まちだ若者大作戦の実施

若者の意見の聴取、反映に留まらず、**若者が “やりたいこと”を自らの力で実現できるように**事業PRや補助金の交付、仲間づくりなどを**市が後押しする**「まちだ若者大作戦」を２０２３年５月に開始し、７つの事業が実現しました。

主に市がサポートしていること

○ 一緒に取り組む仲間が欲しい！企画をみんなに知ってほしい！

➡市が企画実現のための仲間づくりや企画のPRをお手伝いします。

○ お金や道具、場所が必要！

➡ 企画の内容（プラン）に応じた補助金を交付します。また、相談に応じて道具や子どもセンター等の施設の貸し出しを行います。

①やりたいこと実現プラン

１件につき、上限１０万円の補助金が交付されます。

②まちづくりプラン

行政課題の解決につながると市に賛同された企画です。

１件につき、上限５０万円の補助金が交付されます。

企画の審査も若者のみで実施

募集要項や審査方法を
若者と市が一緒に検討

若者による実行委員会が作成

9　構成要素1「子どもの参画のポイント」

まちだ若者大作戦の実現したプラン

市役所の全庁横断的な体制による後押しだけではなく、**地域の大人や民間事業者、大学など様々な大人の尽力により“若者がやりたいこと”が実現**しました。

Music at 四季彩の杜西園「ムジカ」

高校生や大学生の若者を集めて野外で音楽フェスを開催

地域の大人の協力による
機材の搬送

子どもセンターにあるステージ・
機材の貸し出し

公園管理者の協力で
野外での音出しが可能に

広報まちだジャック計画

「広報まちだ」に若者が書いた記事を掲載

広報課やデザイン業者と企画の相談

まちだ救命フェスティバル

AEDや心肺蘇生法などを学べるイベントを実施

民間事業者や
地域団体による催し